

ACTIVO 通信

第 6 号 2019 年 4 月

ホンジュラス国金融包摂を通じた CCT 受給世帯の生活改善・生計向上プロジェクト

- 貧困者比率が 6 割以上と言われる中米ホンジュラスにおいて、自立発展的な貧困削減を目指しています。
- 現地でのプロジェクト愛称は ACTIVO です。このため、当プロジェクトの進める貧困削減モデルを、ACTIVO モデルと呼びます。これは、スペイン語のスローガンである「より良い生活のための貯蓄、金融口座、労働及び収入 (Ahorro, Cuenta financiera, Trabajo e Ingreso para la Vida Optimizada)」の頭文字をとったものです。
- スペイン語の ACTIVO には、英語のアセット(資産)とアクティブ(活動的)の両方の意味があります。この ACTIVO モデルを使うことで、最貧困層が「活動的に資産形成すること」ができるようになり、結果、外的ショック(治安流動化、自然災害、流行病等)が発生した場合でも、これに耐えることができるようになります。これにより、最貧困層は、家計・生計を安定的に維持又は強化できるようになります。
- ACTIVO モデルでは、最貧困層の家計管理、金融利用、生計向上活動(生業ビジネス等)を整合的に強化します。

第 3 次・第 4 次第三国研修の実施

パラグアイの知見に関する学びを深めました!!

本プロジェクトでは、最貧困層の貧困削減のため、民間金融機関を通じて、最貧困層に適した金融商品・サービスの提供を促しています。これまで金融商品にアクセスできていなかった最貧困層・零細企業等に金融商品・サービスを提供していくことを金融包摂と呼びます。これと併せて、ホンジュラス政府は、社会包摂も重要視しています。最貧困層を社会の中に取り込み、社会資本を活用しながら、その生活・生計の安定化を図るためです。

こうした取り組みを強化するため、以下の通り、第 3 次・第 4 次の第三国研修を南米パラグアイで行いました。

- **第 3 回研修(2018 年 10 月)**: 本プロジェクト現地側実施機関である社会統合副省(SSIS)の高官、金融機関監督当局である国家銀行保険委員会(CNBS)の高官に加え、商業銀行の幹部職員等が参加しました。パラグアイの社会・金融包摂政策の実施体制、モバイル金融サービス(MFS)活用事情等を学びました。
- **第 4 回研修(2019 年 3 月)**: 民間金融機関の幹部職員に加え、ホンジュラス中央銀行の職員も招待し、パラグアイ中央銀行との意見交換等を図りました。



パラグアイ中央銀行訪問時の様子(2019 年 3 月)

新たな社会・金融包摂の取り組み開始

ACTIVO モデルの組織的取り組みが強化!!

パラグアイ社会開発省の取り組みを踏まえ、ホンジュラスにおいても、最貧困層向けの基礎消費支援(給付金提供)のみならず、それと連携した生業ビジネス強化支援が重要であるとの認識が高まりました。これを踏まえ、下図の通り、社会統合副省では、給付金卒業戦略の一環として、ACTIVO モデルが位置づけられることになりました。



他方、これまでの第三国研修に、信用組合連合会の総裁を含む幹部が参加したことを受け、同連合会加盟信組のうちの 10 信組程度で、小規模金融業務の業務改善が図られました。これにより、各地域の低所得者層が、より金融サービスを利用しやすくなりました。

注:ACTIVO 通信に掲載されている見解については、独立行政法人国際協力機構及びホンジュラス政府の公式見解と一致しないこともあります。